

農作物生育・技術情報7号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稻生育状況（8月15日現在 普及センター調査ほ）

8月1半旬（8/1～8/5）の気温がやや低く、2半旬（8/6）以降は気温が上昇したものの登熟は緩やかに経過しており、8/15現在で、ななつぼしの生育は平年より3日遅くなっています。

品種	区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/㎡)	平年との遅速 (日)	成熟期予測 8/15時点
ななつぼし	R8年	92.5	11.2	584.2	-3	9月8～10日
	平年値	91.7	10.7	532.7		
	差	0.8	0.5	51.5		
ゆめぴりか	R8年	87.7	11.4	572.1	-4	9月6～8日
	平年値	90.8	10.8	592.2		
	差	-3.1	0.6	-20.1		

○登熟後半の水管理

8月に入ってから降雨が少なく経過しています。土壌が乾燥しすぎると、登熟不良の原因となります。収穫の10日前頃までは土壌表面を極端に乾燥させないように注意しましょう（水田の適正な水分は、土壌表面に小さな亀裂ができ、少し足跡が付く程度）。

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植: 第9～10果房収穫中 4月定植: 第5～6果房収穫中 5月定植: 第5～6果房収穫中 6月定植: 第1～2果房収穫中 ・寡照による落花(果)が見られる ・灰色かび病、すすかび病、アザミウマ類の発生が見られる	・少量多かん水を実施する ・強日射時は2重カーテンを下ろして遮光し、果実への直射日光を軽減する ・不着果対策としてトマトーンを活用する ・老化葉を摘葉し通気性を確保する ・病害虫の定期的な防除を行う ・8月下旬に疫病の予防防除を実施する
きゅうり	・整枝、誘引中 ・主茎は17～19節程度まで伸長 ・アザミウマ類の発生が見られる。また、一部で高温による葉焼けが見られる ・8月16日から共選開始	・主茎の摘芯や側枝の整枝は、一度に行くと樹勢が衰えるので注意する ・病害は予防を中心に防除を行う。害虫が見られたら早期防除に努める ・ハウス内外の除草を徹底する ・涼しい時間帯での少量多かん水を行う
ハウス軟白ねぎ	・4月定植収穫中 ・アザミウマ類、ハモグリバエ類が見られる	・防除の際は、同じRACコードの薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行う
アスパラガス (ハウス立茎)	・灰色かび病・斑点病の発生が見られる	・ハウス内外の除草を徹底する ・斑点病の防除を定期的に行う ・出入口や側窓の解放、適度な整枝を行い、風通しを良くする
いちご	・収穫中 ・成り疲れの影響で草勢の低下が見られる。	・弱小腋芽、古葉、ランナーの摘除、摘果を早めに行う ・ハダニ類、アザミウマ類の防除を行う

3 畑 作

(1) 大 豆

○マメシンクイガ：2回目の防除は1回目の7～10日後に実施しましょう。

(2) 小 豆

○アズキノメイガ、マメノメイガ：2回目の防除は1回目の7～10日後に実施しましょう。

○灰色かび病、菌核病：開花期以降に多湿条件となった場合や、過繁茂など風通しの悪い条件では注意が必要です。1回目の防除から7～10日後に2回目を実施しましょう。

(3) てんさい 【詳細については北糖の「てん菜栽培技術情報」を参照ください】

○褐斑病：気温が高い日が続いています。加えて多湿条件では急激に蔓延する可能性があるため、特にこの時期は防除間隔(10日程度の間隔)に留意し防除を徹底しましょう。

○シロオビノメイガ、ヨトウムシ、シロイチモジヨトウ：高温で経過していることから多発が懸念されます。また、昨年8月下旬より全道で確認されたシロイチモジヨトウにも注意が必要です。幼虫による加害状況を確認し防除を徹底してください。

4 畜 産（8月15日現在 普及センター調査ほ）

●牧草生育状況

作物名	生育状況			平年比 (日)	備 考
	項目	R 8 年	平 年		
牧草(2番草)	草丈(cm)	67.5	70.0	－2	生育は平年並みである

①牧草のは種を行う場合は、越冬時の生育確保のため、遅くとも9月下旬までには終えましょう。

②新播草地で雑草が多発した場合は、雑草の草丈が20～30cmになった頃、刈取り高さ10～15cmで掃除刈りを行いましょう。

③オーチャードグラスは、8月下旬に施肥すると耐凍性の高い分けつが促進され、越冬性が高まります。

●飼料用とうもろこし生育状況

作物名	生育状況			生育 期節	平年比 (日)	備 考
	項目	R 8 年	平 年			
飼料用 とうもろこし	稈 長(cm)	260.7	299.9	乳熟 5%	－3	生育はやや遅れている。沿岸部と山間部で地域間差が見られる
	葉 数(枚)	18.3	19.0			

本年の生育は地域間差が見られます。今後の気象条件、登熟度合に留意し、早めの収穫準備を心がけましょう。

5 農薬の安全使用

農薬散布は日中の暑い時間帯を避け、朝夕の涼しい時に実施しましょう。また、一人で長時間の連続・散布作業は避けるようにしましょう。ドリフトにも十分注意しましょう



30℃近い気温で経過する予報が出ています

こまめな休憩、水分補給、周りへの声かけなど、熱中症予防も徹底しましょう